

飛騨郡代高山陣屋文書① 翻刻

乍恐以書付奉願上候

高山壺之町村小兵衛外貳拾參人之者共義、從來
塗師屋渡世致来り候ニ付、何卒以来も右渡世
御許容被成下候様奉願上候、勿論御冥加永
之儀は、御差凶通可奉上納候、尤不締之義
無之様可仕候間、何卒右願之趣、御聞濟被成下置候ハ、
難有奉存候、以上

願塗師屋惣代

明治二巳年正月

壺之町村

文 助^印

同断

式之町村

清三郎^印

同断

同村

和 助^印

組頭惣代

東雲屋

文 七^印

商法

御役所

前書之通御願奉申上候ニ付、奥印仕奉差上候、以上

里正助

三四郎^印

(端裏書)

「巳正月十二日高山壺之町村小兵衛外廿三人之者塗師屋渡世願書
願之通御許容相成、尤為冥加年々国産漆善悪見訳

或ハ製方相遣候而、可然奉存候

(端裏朱書)

「願之通り聞濟候、運上

之儀ハ追而差づ

可致候

」

」